

kins University Press, Baltimore, 1971.

【編著書】

McC. Brooks, Ch. and Levey, H.A.: *Humorally-Transported Integrators of Body Function and the Development of Endocrinology*. 183—238. *in* McC. Brooks, Ch. and Cranefield, P.F. (eds.): *The Historical Development of Physiological Thought*. Harner, New York, 1959.

六 投稿原稿は、コピーを一部添付すること。原稿は著者校正の際も原則として返却しないので、手元にコピーを一部残すこと。

七 著者校正は、原則として原著・総説・研究ノート・広場資料を対象とし、初校のみとする。校正は印刷上の誤植を訂正するに留め、原稿の改変や、その他の組み替えは認めない。校正刷りの返送期日を厳守すること。期日までに返却されない場合は責了とみなす。

八 刷り上り一〇印刷ページ(四〇〇字詰原稿用紙で二四枚)までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九 論文別刷は五〇部単位とし実費で作製する。別刷希望者は校正刷同封の申込書に部数を明記すること。

一〇 原稿の送り先

〒一一三 東京都文京区本郷二丁目一一

順天堂大学医学部医史学研究室内

日本医史学雑誌編集委員会

編集後記

本年の最終号をお届けする運びになった。前号(三号)では発刊間きわに、文献目録が例年より量が多く、アンバランスに厚い号になる恐れを生じたため急遽、掲載既定の連載資料を四号送りにさせて頂き、目録の頁当たり収載量を増やすなどして、どうか本誌としてタイ記録の厚さに押さえることができた。

本号では三号の大鳥蘭三郎前理事長・名誉会員に続いて、多くの方々のご協力によって、宗田一常任理事の追悼特集を組むことができたが、両先生を送ったことで、改めて本年がこの学会にとつて損失の大きい年であったことを痛感せざるを得ない。

年四回刊行の本誌の本格的な査読(審査)制度採用とともに、それまで隔月開催だった編集委員会は毎月開催が原則になつているが、全委員が他に本業を持つている現状ではこれ以上の密度は不可能で、合議制維持のためにもファックス・電話・速達などの行き交う日々が続いている。査読制度採用直後の両三年と違つて、現在では投稿が活発で円滑な刊行を支えて頂いているのは有難く、今後ともいっそうのご協力をお願いする次第である。

この執筆時点でも、まだ本学会の主要行事は残つているが、歳末と寒気の迫つている折から、会員読者各位のご自愛とご健祥を祈つて筆を措く。
(三輪卓爾)